

サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動 と資源紛争の研究

— 中東諸国とグローバルアクターとの相互関連の視座から —

平成27年3月



公益財団法人日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

はしがき

本報告書は、当研究所の平成 26 年度外務省外交・安全保障調査研究事業（調査研究事業）「サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究 ―中東諸国とグローバルアクターとの相互連関の視座から―」の研究成果をまとめたものです。

本研究プロジェクトでは、サハラ砂漠の北側に位置する北アフリカ地域と、サハラ砂漠の南側に連なるいわゆるサヘル地域を、「サハラ地域」として一体の地域と捉えて分析を行いました。北アフリカ地域には、モロッコ、アルジェリア、チュニジア、リビア、エジプトが、サヘル地域には、モーリタニア、マリ、ニジェール、チャドが含まれます。サハラ砂漠を挟んで隣り合う北アフリカ地域とサヘル地域は、歴史的・文化的に強いつながりを有するだけでなく、資源開発と過激イスラーム主義勢力の伸張という問題においても緊密な関係を有しています。以上のような「サハラ地域」理解を前提としつつ、本研究プロジェクトでは、関係する分野の専門家が参加する研究会を立ち上げ、この研究会の活動を通じて同地域における資源開発とイスラーム過激勢力の現状を調査分析し、それを中東諸国の安定と欧米諸国の外交戦略との連関において考察して参りました。また、この1年の間に一層過激化したナイジェリアの「ボコ・ハラーム」や2014年6月に樹立した「イスラーム国」のサハラ地域への影響についても考察しました。

本報告書に表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本書が「サハラ地域」を様々な観点から研究していく上での意義ある一助となれば幸いです。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 27 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 野上 義二

研究体制

| | | |
|--------|-------|---------------------|
| 主査： | 私市 正年 | 上智大学総合グローバル学部教授 |
| 委員： | 飯村 学 | 国際協力機構アフリカ部参事役 |
| | 茨木 透 | 鳥取大学地域学部准教授 |
| | 坂井 信三 | 南山大学人文学部教授 |
| | 横田 貴之 | 日本大学国際関係学部准教授 |
| | 吉田 敦 | 千葉商科大学人間社会学部准教授 |
| | 若桑 遼 | 上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程 |
| 委員兼幹事： | 飯島 俊郎 | 日本国際問題研究所副所長 |
| | 貫井 万里 | 日本国際問題研究所研究員 |
| 担当助手： | 石塚 陽子 | 日本国際問題研究所研究助手 |

(敬称略、五十音順)

目 次

| | | |
|------|--|-------------------------|
| 序 章 | イスラーム急進派をめぐる政治地理学的変化 ——中東・北アフリカ・サハラ地域が直面するあらたなテロリズム | 私市 正年 …… 1 |
| 第1章 | 革命後のチュニジアにおけるイスラーム武装闘争派 ——「アンサール・シャリーア」の伸長と現状 | 若桑 遼 …… 15 |
| 第2章 | カッターフィー政権崩壊後の混乱要因と背景 ——ベンガージを中心としたリビア東部地域に着目して | 田中 友紀 …… 31 |
| 第3章 | エジプト——スィーサー政権下のイスラーム主義運動 | 横田 貴之 …… 45 |
| 第4章 | 北部ナイジェリアのムスリム・コミュニティとイスラーム改革運動 | 坂井 信三 …… 53 |
| 第5章 | サハラの急進派グループを支える<経済>活動 | 茨木 透 …… 75 |
| 第6章 | サヘル地域の紛争と国際資源開発 ——チャドにおける石油資源開発とその政治経済的影響 | 吉田 敦 …… 89 |
| 政策提言 | ——サハラ地域の安定化に向けた日本の外交政策への提言 | 私市 正年・飯村 学・貫井 万里 …… 101 |